

デザインプロセスを活用した持続的な観光商品の開発及び質向上プロジェクト（2022年～2025年）

デザイン視点の観光商品開発で生計向上を！

～「デザイン×国際協力」の新たな可能性～

- 実施団体：公立大学法人 長岡造形大学
- 対象国・地域：ラオス国 シェンクアン県 ペク郡 ミーサイ村・ムアン村
- 現地カウンターパート：シェンクアン県計画投資局

■協力内容：

- ・商品開発手法の習得のためのデザインプロセスの勉強会
- ・既にある観光商品（ハチミツ）の改善と新たな観光商品の開発
- ・観光客向けの展示会開催及び新たな販売先の整備

■長岡造形大学のこれまでの取り組み：

2017年から対象地域において、認定NPO法人テラ・ルネッサンス及び株式会社坂ノ途中と連携して、ハチミツの商品化とその商品デザインマニュアルの作成に取り組んだ。活動の中で、住民の収入向上に繋がるデザインやパッケージ開発の重要性が認識されたことから、長岡造形大学が持つ「デザインプロセス（※以下参照）」の知見を活用した本事業の提案・実施に至った。

■事業実施の背景：

ラオス北部に位置するシェンクアン県は、ベトナム戦争時代に激しい空爆を受けた地域。70%以上の住民が農業を営むが、不発弾汚染による農地不足から、彼らの平均年収は極めて低く、ラオス国内でも最低レベルの生活水準にある。さらに一部の住民は農地を求め、不発弾撤去を待たず農地開拓を行い、事故に巻き込まれることも問題となっている。一方、世界遺産「ジャール平原の巨大石壺遺跡群」を有するこの地には、海外からも観光客が訪れており、住民の生計向上に繋がる観光商品の開発力が求められていた。



！ デザインプロセスとは…？

「使用者や購入者の視点から対象の問題を理解し、解決に導く手法」。他者視点で物事を捉える、この「デザインプロセス」の力を習得し、地域資源を活用しながら、住民たち自身が観光客に求められる魅力ある商品開発を目指した。

ラオス国の課題と成果

課題 消費者ニーズに応じた観光商品開発スキルの不足
成果

①アップサイクル商品を開発し、新たな収入源に！：

各家庭に眠る古着の伝統衣装の生地を活用し、トートバックやコースター等の商品を新たに開発。県内6か所でパイロット販売先を確保し、生産体制を構築。売上は農業の平均年間収入の3分の1に上り、住民にとって新しい収入源となった。



②1人でも多くの住民が参加できる工夫：

住民がサインペン一つで自由に線や渦巻き、商品等を描いたイラストを生産品のパッケージとして採用。デザインが不得手、特殊な生産設備を持っていないといった住民も、1人ひとりが商品開発プロセスへ参加できるような取り組みも。



事業の波及効果

！ 思いを形に～ブランドロゴ作成に込められた願い～

本事業では、住民が抱く本事業や村への思いを反映した「ブランドロゴ」を制作。村独自の観光商品パッケージとして展開しました。自分たちの思いが「ブランドロゴ」として反映されていくその過程は、村の住民にとって、その地域の価値を再認識できる機会に。今後は、エンパワメントされた住民たちが、自分たちの村に誇りを持ち、観光商品開発に主体的に取り組んでいきます！



Phu Hak
Hang mixay village

Made in Xiengkhouang, Laos